

# 特制的分案系 0 2005. 541339

今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。

優先日

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

国際出願日

(法第 12 条、法施行規則第 56 条) [PCT36 条及びPCT規則 70]

19133

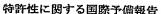
出願人又は代理人

の書類記号

国際出願番号

REC'D	3 0	JUN	2005
WIPO			p

PCT/JP2004/000518 (日. 月. 年) 22. 01. 2004 (日. 月.年) 12. 0	2. 2003
国際特許分類(I P C)Int.Cl. <sup>7</sup> C09J161/06, B32B7/12, C09J129/04, 201/00	
出願人(氏名又は名称) N O K 株 式 会 社	
<ol> <li>この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第57条 (PCT36条) の規定に従い送付する。</li> <li>この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で4 ページからなる。</li> </ol>	
3. この報告には次の附属物件も添付されている。 a. ▽ 附属書類は全部で3 ~ージである。	
<ul> <li>         ▼ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明囲及び/又は図面の用紙 (PCT規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)</li> <li>         「第 I 概4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を国際予備審査機関が認定した差替え用紙</li> </ul>	
b. 「 電子媒体は全部で (電子媒体の種類配列表に関する補充概に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表プルを含む。(実施細則第 802 号参照)	₹、数を示す)。 に関連するテー
4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。  「第 I 梱 国際予備審査報告の基礎 「第 I 梱 医先権 「第 II 棚 優先権 「第 II 棚 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成 「第 IV 棚 発明の単一性の欠如 「第 V 棚 P C T 35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、 けるための文献及び説明 「第 VII 棚 ある種の引用文献 「第 VII 個 国際出願の不備 「第 VII 個 国際出願の不備 「第 VII 個 国際出願に対する意見	. それを裏付





	THE POST OF THE PO	国际出腹番	号 PCT/JP2004/000518
第I棚	報告の基礎		
1. ±0	の国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほど	か、国際出願の言語を基礎	きとした。
ŗ	この報告は、 語による翻訳文を それは、次の目的で提出された翻訳文の言語であ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査 PCT規則12.4にいう国際公開 PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査	<b>ა</b> გ.	
2. この た差替え	)報告は下記の出願書類を基礎とした。 (法第69 と用紙は、この報告において「出願時」とし、この	条(PCT14条)の規定に D報告に添付していない。	基づく命令に応答するために提出され )
-	出願時の国際出願書類		
	23/14 M	•	•
	第 <u>1,3-12</u> ページ、	出願時に提出されたもの	
	第 <u>2</u> ページ*	11. 05. 2004	付けで国際予備案本機則が再加したすの
	第 ページ*	` <u> </u>	付けで国際予備審査機関が受理したもの
<b>▽</b>	請求の範囲	,	•
	第2,4-12,14-17 項、	出願時に提出されたもの	
	第	PCT10冬の用ウにま	たべき捨てもいたもの
	·躬 <u>【,【3</u> 項*	. 11. 05. 2004	付けで国際予農家本機用が平面したよう
	第		付けで国際予備審査機関が受理したもの
Г	図面		•
	第 ページ/図、	出題時に指用されたすべ	
(	第 ページ/図*	日間を見てが正式の40万の	ノ - 付けで国際子供電大機関は5元777~4~2~
,	第 ページ/図*		付けで国際予備審査機関が受理したもの
3. マ	配列表又は関連するテーブル 配列表に関する補充概を参照すること。 補正により、下記の啓類が削除された。		
		<u>;</u>	ページ
			質
	図面 第   配列表 (具体的に記載すること)	<del></del>	<b>ページ/図</b>
	配列表に関連するテーブル(具体的に記載す	-7 - 1.\	
•	・ こりなにめたりもり フル(共体的に配戦)	SCE)	ı
4. <b>厂</b>	この報告は、補充棚に示したように、この報告に えてされたものと認められるので、その補正がさ	:添付されかつ以下に示し れなかったものとして作	た補正が出願時における阴示の範囲を超 成した。 (PCT規則 70.2(c))
Ī	明細書 第		<b>、</b> 一ジ
Į	明細書 第 請求の範囲 第		1
1	凶叫	^	・・ジノ図
	配列表(具体的に記載すること)		
•	配列表に関連するテーブル(具体的に記載す	'ること)	
			į
			·
4. F	該当する場合、その用紙に "superseded" と記入	Jedn. 12 5 1. 200 -	l
140	ペー・ショル CV/加州に Superseded と此人	<b>さ</b> むのことかある。	



#### 第IV棚 発明の単一性の欠如

- - 「・請求の範囲を減縮した。
  - ☑ 追加手数料を納付した。
  - 追加手数料の納付と共に異職を申立てた。
  - 請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。
- 2. 「 国際予備審査機関は、次の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定 に従い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。
- 3. 国際予備審査機関は、PCT規則 13.1、13.2 及び 13.3 に規定する発明の単一性を次のように判断する。
- 満足する。
  - 以下の理由により満足しない。

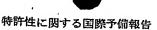
補正により削除された請求の範囲3を除く請求の範囲1-17に共通な事項は、請求の範囲1に記載された「水不溶性フェノール樹脂のメチルエチルケトン溶液と水溶性高分子物質水溶液とから調製されたフェノール樹脂エマルジョン」であるが、国際調査の結果、上記共通の事項は、国際調査報告に記載された各文献に開示されている発明であるか、各文献に開示された発明に基づき当業者が容易に発明し得たものであるから、新規性及び進歩性を有しておらず、PCT施行規則13.2における特別な技術的特徴であるとはいえないとともに、他に特別な技術的特徴となりうる共通の事項が存在するものとも認められない。

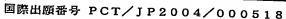
また、他に特別な技術的特徴となりうる共通の事項が存在するものとも認められないから、請求の範囲1-17が、単一の一般的発明概念を形成するように連関している一群の発明であると認めることができない。

- 4. したがって、国際出願の次の部分について、この報告を作成した。
  - ▶ すべての部分

| 請求の範囲

に関する部分





見解		
新規性 (N)	請求の範囲 請求の範囲 <u>1-2,4-17</u>	
進歩性(IS)	請求の範囲 請求の範囲1-2, 4-17	
産業上の利用可能性 ( I A)	請求の範囲 <u>1-2,4-17</u> 請求の範囲	

## 2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1:JP 6-306340 A (NOK株式会社) 1994.11.01

文献2:US 5200455 B1 (Lord) 1993.04.06

文献3:JP 61-278579 A (NOK株式会社) 1986.12.09

請求の範囲1-2ないし4-17の各発明は、上記文献1の開示内容により新規性を有しない。

文献1には、水不溶性フェノール樹脂のメチルエチルケトン溶液とPVAの水溶液とから調製されたフェノール樹脂水性エマルジョン、当該エマルジョンとヘキサメチレンテトラミン等の硬化剤を含有してなる水性加硫接着剤組成物及び当該接着剤組成物により金属とNBR等のゴムとが加硫接着されてなる複合体が開示されており、当該水性加硫接着剤組成物が有機溶剤溶液型と同様の接着性能を有し、有機溶剤含量の低減化により環境規制に対応できる点も開示されている。

また、請求の範囲1-2ないし4-17の各発明は、上記文献1-3の各開示内容により進歩性を有しない。

文献2には、水不溶性フェノール樹脂の有機溶剤溶液とPVAの水溶液とから調製されたフェノール樹脂水性エマルジョン、当該エマルジョンとヘキサメチレンテトラミン等の硬化剤を含有してなる水性加硫接着剤組成物及び当該接着剤組成物により金属とNBR等のゴムとが加硫接着されてなる複合体が開示されている。

文献2に開示された発明と請求の範囲1-17の各発明とを対比すると、文献2には、有機溶剤としてメチルエチルケトンを使用する点に係る具体的開示がない点でのみ一応相違するが、文献1または3に開示されているとおり、フェノール樹脂系加硫接着剤において、有機溶剤として、メチルエチルケトンを適量使用する点は、当業界周知慣用の技術であり、文献2に開示されている発明において、有機溶剤としてメチルエチルケトンを適量使用した点に格別な技術的創意を要するものとは認められない。

モノメチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールのモノブチルエーテル、 モノエチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノプロピルエーテル、 メトキシアセトン等が用いられると述べられている。これらのカップリング剤溶 媒は、水との混和性が完璧であり、フェノール樹脂は80重量%溶液の形成が可能 であると述べられている。

しかしながら、このようなフェノール樹脂水性分散液の製造法では、この公開 公報に記載されている如く、固形分濃度45重量%というような高濃度、高粘度状態においては安定なエマルジョンを形成することができても、実際の分散粒径は かなり大きく、これを水で希釈して使用しようとすると沈殿を生ずる事態ともなり、またそこで用いられるカップリング溶媒の使用目的は、分散粒径が小さく、 粒度分布の狭い良質なエマルジョンを形成させるというよりも、金属表面への漏れ性を改善し、クレーターのない皮膜を形成させることにあると考えられる。

#### 発明の開示

5

15 本発明の目的は、水と完全な混和性を有する有機溶剤の代りに水と部分的に混 和性を有するメチルエチルケトンを用い、しかもそれの使用量を著しく低減せし めた、金属とゴムとの加硫接着などに好適に用いられる水性加硫接着剤組成物を 提供することにある。

かかる本発明の目的は、水不溶性フェノール樹脂のメチルエチルケトン溶液と 20 水溶性高分子物質水溶液とから調製されたフェノール樹脂エマルジョンおよびフェノール樹脂用硬化剤を含有し、メチルエチルケトン含有量が10重量%以下である水性加硫接着剤組成物によって達成される。

水不溶性フェノール樹脂としては、実際にはフェノール、m-クレゾール、p-クレゾール、p-第3ブチルフェノール等のフェノール性水酸基に対してo-位および /またはp-位に2個または3個の置換可能な核水素原子を有するフェノール類また はこれらの混合物、好ましくはコールタールより得られるクレゾール3異性体混合物からo-クレゾールを初留として除いた残渣のm-クレゾールとp-クレゾールと

## 請 求 の 範 囲

- 1. (補正後)水不溶性フェノール樹脂のメチルエチルケトン溶液と水溶性高分子物質水溶液とから調製されたフェノール樹脂エマルジョンおよびフェノール樹脂用硬化剤を含有してなり、メチルエチルケトン含有量が10重量%以下である水性加硫接着剤組成物。
- 2. 水不溶性フェノール樹脂が5~25重量%、水溶性高分子物質が0.2~6重量%、メチルエチルケトンが3~40重量%、そして残部が水となる混合比率を有するフェノール樹脂エマルジョンが用いられた請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
- 3. (削除)

5

- 10 4. 水不溶性フェノール樹脂がノボラック型フェノール樹脂またはそれとレゾール型フェノール樹脂との混合物である請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
  - 5. ノボラック型フェノール樹脂100重量部当り200重量部以下のレゾール型フェノール樹脂が併用された請求項4記載の水性加硫接着剤組成物。
- 6. 水不溶性フェノール樹脂が濃度40~60重量%のメチルエチルケトン溶液とし 15 て用いられた請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
  - 7. 水溶性高分子物質がポリビニルアルコールである請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
  - 8. 水溶性高分子物質がアセトアセチル基変性ポリビニルアルコールである請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
- 20 9. さらに有機金属化合物が添加された請求項5記載の水性加硫接着剤組成物。
  - 10. フェノール樹脂用硬化剤がヘキサメチレンテトラミンである請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
  - 11. ヘキサメチレンテトラミンがフェノール樹脂エマルジョン100重量部当り0. 1~5重量部の割合で用いられた請求項10記載の水性加硫接着剤組成物。
- 25 12. ヘキサメチレンテトラミンと共に水が用いられた請求項10記載の水性加 硫接着剤組成物。

- 13. (補正後)水がフェノール樹脂エマルジョン100重量部当り1000重量部以下の割合で用いられた請求項12記載の水性加硫接着剤組成物。
- 14. 金属または樹脂とゴムとの加硫接着に用いられる請求項1記載の水性加硫接着剤組成物。
- 5 15. ゴムがニトリルゴム、水素化ニトリルゴムまたはアクリルゴムである請求 項14記載の水性加硫接着剤組成物。
  - 16. 請求項1記載の水性加硫接着剤組成物で加硫接着されたゴムと金属または樹脂との複合体。
- 17. 水不溶性フェノール樹脂のメチルエチルケトン溶液と水溶性高分子物質水 10 溶液とから調製されたフェノール樹脂エマルジョン。